毎月第3主日は日本キリスト教団の定めた
「日本伝道の推進を祈る日」です

共に祈るために

全国17教区が取り組んでいる伝道の働きを
２教区（東京は支区）ずつ紹介します。
全国の教区・教会・伝道所を覚えて
祈りをあわせましょう。

献金についての問い合わせは
日本基督教団事務局まで（TEL 03-3202-0541）

日本基督教団伝道推進基本方針

- 祈祷運動 共に祈ろう
- 信徒運動 共に伝えよう
- 献金運動 共に献げよう

「日本基督教団全国伝道推進献金」
振替口座 00140-7-293436

西中国教区

毎月第２水曜日11時40分、山口県庁前に人々が集います。それを、大きな声でとりまとめているのが内岡貞雄さん（西中国教区宣教委員会社会部委員、下関西教会員）です。これは山口県が山口朝鮮初中級学校への補助金を２０１３年度に停止して以来、毎月その復活を要請する「朝鮮学校を支援する山口県ネットワーク」の座り込み行動です。日本人と在日コリアン合わせて40名ほどが集います。

間もなく10年を経ます。この教育への政治の不当介入に国連からも是正の勧告を受けながら、日本政府と山口県を含むいくつかの自治体は民族教育を受ける権利を認めようとしません。

ネットワークは、当初、諸団体をつなぐのみで、組織化をあえて避けていましたが、取り組みが長引く中で組織化され、内岡さんを代表として今日に至っています。西中国教区も教区総会で取り組みを決議し、構成団体の１つとなりました。ネットワークには、思想・信教・党派を超えて諸団体が連なりますが、それらがつながり合えている要因の１つに、内岡さんのキリスト者としての働きがあるように思います。

内岡貞雄さん。2014年、長生炭鉱水没事故による犠牲者追悼集会にて

内岡さんはその他にも、いわゆる「徴用工問題」の１つで、長生炭鉱水没事故問題の解決を図る「長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会」の共同代表を長年務め、現在は顧問となっています。この市民団体も、イデオロギーや立場を超えて人と人とをつないできました。

和解のために、人と人とをつなぐのに必要なことは、鋭敏な人権理解です。そしてその源泉としての聖書があります。

内岡さんが役員を務める下関西教会は現在無牧師です。次年度の牧師招聘（しょうへい）に向けて、分区、教区との共働の歩みが続いています。

（西中国教区総会議長　小畑太作）

四国教区

20の教会がある大阪教区南海地区では「教会学校会議」という名称で、同地区内にある在日大韓基督教会を含む各教会学校の教師達が集まり、研修会や子ども集会を長らく行ってきた歴史があります。特に教会の牧師だけでなく、その会議の委員長や書記、会計は信徒の方々が大切に担ってきました。40年近く、年に2回、各教会学校の教師たちが集まり、それぞれの教会の課題や喜びを分かち合いう「教師研修会」と、教会の子ども達を招いてデイキャンプをする「生徒の集い」を行ってきました。わたしがこの南海地区に着任した時、最初に参加した集会がこの「生徒の集い」でした。

西条教会（上）と松山城北教会の教会員

各教会から集まった子ども達は、年に一回の再会を喜びつつ、大きなカレー鍋をつつきながら笑顔でお話をしていたことがとても印象的でした。また、教師研修会では「子ども達へどのように福音を語るのか」などの課題について、講演を聴きつつ各教会の教会学校の教師たちが熱心に語り合っていました。牧師だけでなく、教会の信徒同士が率先してそれぞれの課題に向き合い、喜びを分かち合っていく様子は恵みに満ちたものでした。

昨今の新型コロナウイルスの影響により、各会の中止を余儀なくされおりましたが、今年度から教師研修会を再開することとなりました。子どもの減少や信徒の高齢化など、多くの課題がある時だからこそ、各教会同士が声を掛け合い、支え合っていくことが求められますが、信徒の方々が率先して教会を想い、働きかけてくださることに感謝するばかりです。これからも共に苦難も喜びも分かち合っていきたいと心より願っております。

（四国教区総会議長　黒田若雄）

祈りの課題

四国教区

- 少子高齢化や人口減少が急激に進む四国において伝道に取り組む教区の各教会・伝道所、また関係学校・施設のために。
- 西条教会と松山城北教会のために。

郵便振替 01680-9-15047
「日本基督教団四国教区」

西中国教区

- 平和と自由と正義が実現し御国が到来するように。
- 一人が大切にされる世界となるように。
- 教会が、重荷を負う人が休める場となるように。

郵便振替　01330-6-14659
「日本基督教団西中国教区」